

佐鳴湖のこまったいきもの：静岡大学工学部 戸田三津夫准教授

■佐鳴湖のこまったいきもの（冊子）制作

佐鳴湖の生態系や環境について20年にわたって調査している静岡大学工学部の戸田三津夫准教授が、身近な佐鳴湖の侵略的外来種※を紹介する冊子『佐鳴湖のこまったいきもの』を制作しました。

外来生物は人間の活動によって他の地域から入ってきた生物で、すでに日本には何千種もいるがほとんどのものは影響が小さく、害の大きなものを侵略的外来種というとのこと。

戸田先生は、佐鳴湖の生き物に触れる際、侵略的外来種の知識がないゆえに法律違反にならないよう気をつけてほしいと語ります。

冊子では、2023年6月外来生物法の改正により、採取や飼育はできるが野外への放出や販売・購入が禁止された「条件付き特定外来生物」なども紹介しています。

※侵略的外来種とは、外来種のうち生物多様性や産業、人体への大きな害があるもの。



佐鳴湖のこまったいきもの（冊子）より

冊子の入手先：佐鳴湖公園北岸管理棟（9：00～17：00）

住所 浜松市中央区富塚町5147-4 電話 053-476-0210 ★冊子16ページカラー（無料）

オイスカ浜松国際高校 環境SDGsプロジェクトが受賞

■静岡県SDGsスクールアワード2023受賞

県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒によるSDGsの取組を募集する「静岡県SDGsスクールアワード2023」（主催：県教育委員会）において、オイスカ浜松国際高校が高校部門最高位の県教育長賞を受賞されました。また、企業賞「株式会社杏林堂薬局賞」「株式会社静岡銀行賞」も同時に受賞されました。

■高校生ボランティア・アワード2023受賞

「高校生ボランティア・アワード2023」（主催：公益財団法人風に立つライオン基金）に、全国から高校生（135団体）がエントリーし、2023年8月に静岡県からオイスカ浜松国際高校・環境SDGsプロジェクトが審査員特別賞（古田敦也賞）を受賞されました。環境地域参画型Eco-DRR 浜と松プロジェクト”自然災害に強い、美しい海岸を目指して”をテーマに産官学連携の輪を広げた様々な活動に挑戦していることが評価されました！

この受賞により、生徒の環境保全活動へのモチベーションが高まるとともに、企業との連携に拍車がかかることが期待されます。



県SDGsスクールアワード表彰式



2023年9月20日中日新聞掲載記事

団体や企業等の活動情報や新たな取組などがありましたらお知らせください。

はまなご環境ネットワーク事務局（TEL.053-458-3480 E-mail info@shizuoka-t.net）

浜名湖環境保全団体情報誌 第41号

はまなご環境通信

発行／静岡県（はまなご環境ネットワーク）

発行日／令和6年2月28日

事務局／NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中央区常盤町133-13

TEL053-458-3480

Eメール info@shizuoka-t.net



■浜名湖環境活動団体交流会を開催しました！

浜名湖の環境に取り組む団体、企業、行政と一緒に互いの情報を交換し、活動団体が抱えている課題の解決策を話し合う「浜名湖環境活動団体交流会」を開催しました。

- 日時 令和6年1月27日（土）13：30～16：00
- 場所 地球のたまご（OMソーラー㈱社屋カフェテリア）
- テーマ 生物多様性と持続可能な活動



OMソーラー㈱社屋・地球のたまごで開催

（1）話題提供：

①ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ協定の紹介（静岡県自然保護課）

パートナーシップ協定制度を創設した県自然保護課が、制度の紹介や登録状況などを説明しました。

②協定を締結した企業から活動の紹介（須山建設㈱）

パートナーシップ協定を締結した須山建設㈱が弁天島の「いかり瀬」の外來植物除去活動に関する紹介を行いました。地域の企業として、活動を通じて感じている課題や持続的な取組とするための今後の展望について説明されました。

③浜名湖（いかり瀬）の生きもの環境

（講師：浜名湖パドル代表 鈴木克章氏）

浜名湖でカヤック・サップを使った自然体験を行っている中で、いかり瀬の海浜植物や干潟の生きものなどの生態系や、外來種による影響についても関心と見識が高まり、その保全のために行っていきたい対策などをお話いただきました。

（3）リレートーク

希望する団体から、浜名湖の環境に関する活動の紹介がされました。

（4）意見交換会

- テーマ：浜名湖の環境と生物多様性
- 論点：持続可能な活動に向けて



参加者と一緒に意見交換



須山建設㈱池谷氏からの活動紹介



浜名湖パドル 鈴木氏の講演

【主な意見】

- ・楽しみながら無理をせず、細く長く活動
- ・企業との連携は企業のニーズ把握が大切
- ・活動資金を得る情報収集やノウハウの共有化
- ・パートナーシップ制度や基金を積極的に活用
- ・企画力を高めるための研修も必要
- ・多様な主体との活動をコーディネートする力

浜名湖環境活動団体交流会の様子は右の二次元コードを読み取ってWEBサイトで紹介しています



■活動の経緯・主な活動

浜名湖と太平洋が繋がる今切口近くに位置する弁天島。湖に浮かぶシンボルタワーの鳥居の下には、無人島（いかり瀬）が広がり、さまざまな動物や植物に出会えます。しかし、現在は、我々が子どもの頃に見た生きものたちのいくつかは見かけなくなりました。今ではアマモという植物が減少し、これに伴って「アサリ」をはじめ、多くの生きものたちの繁殖が壊滅的な状況であります。

浜名湖ネイチャーズは、次世代に豊かな浜名湖を残し、浜名湖が皆さんにとって沢山の思い出を作る場所として、そして海の生きものたちが暮らしていけるように自然環境を保全していくための活動をしています。

●浜松市環境学習指導者団体登録 環境学習指導者

浜名湖ネイチャーズは、令和5年度浜松市環境学習指導者団体に登録されました。メンバー3名が環境学習指導者としていかり瀬での環境学習を提供しています。生きもの観察会では、いかり瀬の生きものに関する説明を担当しています。アマモの保全は、アマモを育てて成長したものを植える活動もしています。

また、ごみ拾いで回収した、「うみゴミ」を活用したクラフト体験も提供しています。楽しみながら、海のごみのことについて知ってもらいたいと思いい、活動をしています。

●美しい浜名湖を守る、いかり瀬の清掃

浜名湖の自然環境を守るため毎月いかり瀬の清掃活動を実施しています。弁天島海浜公園から船に乗って、数分でいかり瀬に到着します。令和5年度は10回の清掃活動に、延べ306人が参加し、251.5kgのゴミを集めました。

また、「プロギング浜松※」と共催して楽しみながら、いかり瀬の清掃活動も行っています。 ※プロギングとは…ゴミ拾い（PlockaUpp）とジョギング（Jogging）を合わせたスウェーデン発のSDGsスポーツです。

●自然を身近に感じる「生きもの観察」

生まれ育った浜名湖について、次世代を担う子どもたちに知ってもらいたいという会長の強い思いで「いかり瀬生きもの観察会」を実施しています。いかり瀬（無人島）は、太平洋と直結し、今切口を通して浜名湖の水と海水が混ざり合います。そのため、いろいろな水生動植物が数多く生息しています。そのいかり瀬に上陸して生きもの観察をします。

令和5年度は27回の生きもの観察会を行い、延べ1,192人の子どもたちに参加していただきました（弁天島遊船組合との協働事業）。

●「海のゆりかご」アマモの保全 静岡大学との共同研究

浜名湖で激減している「アマモ」の再生に取り組んでいます。アマモは“海のゆりかご”と呼ばれ、アマモ場の存在が浜名湖の生物多様性に大きく関わっています。そのアマモを、家で種から育てて苗にして海へ返す活動をしています。令和5年度は12月に実施し、令和6年春に海に返す予定です。アマモを研究する静岡大学教授のお手伝いもしています。アマモを増やすために必要な環境と条件の研究をしています。



浜名湖ネイチャーズの環境学習指導者



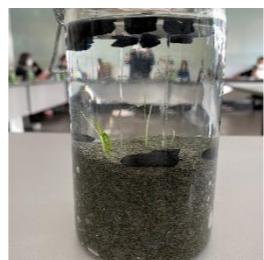
うみゴミを活用した貝殻クラフト



プロギング浜松と一緒にいかり瀬清掃



いかり瀬の生きもの観察会



アマモの育苗

■弁天島いかり瀬でアクティビティの提供

浜名湖パドル代表の鈴木克章さんは、カヤックで、海外（タイ、ラオス、インドの川、ハワイの海）や日本列島を一周した経験から冒険家としても活躍し、生まれ育った浜名湖で、いかり瀬でのパドルングツアー、サップを使ったアクティビティ体験を提供しています。

■環境に関する取組

その他、ツアーのプログラムの中に海浜植物や生きもの調査・観察なども取り入れています。三重大学の自然環境リテラシー学科の学生にも、いかり瀬で体験・環境の学びを提供しています。

●いかり瀬の貴重な海浜生物

いかり瀬には、貴重な海浜生物が生息しています。タマシキゴカイの糞やツバサゴカイの棲管（せいかん）、ウミニナ（巻貝の一種）、スナガニなどが普通に見られることはすごいことです。ゴカイは、砂の中の有機物を食べるので浜名湖の水環境保全にも役立っています。アクティビティを体験してもらいながら、貴重な干潟の生きものが生息していることを知ってもらう活動も行っています。



タマシキゴカイの糞を説明



ツバサゴカイの棲管が出ている



ウミニナも数多くみられる

●いかり瀬の貴重な海浜生物と外来植物

いかり瀬には、ハマボウフウやハマゴウ、ハマヒルガオなど貴重な海浜植物が多く自生しており「海浜植物の楽園」でもあります。ハマゴウは、浜香と書き、種からハーブの香りがする植物です。遠州灘沿岸には防潮堤の整備によりいなくなっていますが、いかり瀬はわずかに自生しています。いかり瀬に上陸して歩く時にも踏みつづさないように説明して、注意を呼びかけています。

一方で、いかり瀬はオオフタバムグラやナルトサワギクなどの外来植物に覆われて、海浜植物が駆逐されている状態で危機感を感じています。いかり瀬は広大であるため、人間の手作業で外来植物を駆除することは本当に多くの人の手と理解が必要になります。

日ごろいかり瀬で活動しているので、個人的に一定のエリアで季節ごとに海浜植物の状況をモニタリング調査していますが、一定の区域で駆除活動を行って、その成果が確認できるようになればいいと思っています。

官民が連携して外来植物をしっかりと対策しないといけないと考えています。



一面に広がるいかり瀬の外来植物



いかり瀬東海岸 2023年4月23日



2023年8月23日 南岸にてモニタリングテスト中

季節ごとにモニタリング調査

